

<発言者>

<項目・内容>

委員長

1 委員長挨拶

「岐阜県の陸上自衛隊射撃場で、2人が死亡するという事件があり、銃を持つことの危険性を改めて認識したところである。警察でも銃の管理を引き続きしっかりやっていただきたい。また、先日浜田警察署協議会に出席したが、前もって意見・要望を求めた上で開催されたことで、活発な意見交換がなされ頼もしく感じた。その中で、通学路での交通巡視などについて、有意義な意見があったので、参考にして今後に活かしてもらいたい。梅雨時期となり、災害訓練を重ねることも大事であるが、職員の健康管理もしっかり行ってほしい。」旨の発言があった。

警察本部

2 議題

警察職員の援助要求

警察職員の援助要求について説明があり、原案のとおり決定した。

警察本部

3 報告

(1) 苦情の取扱状況（令和5年5月）

苦情の取扱状況（令和5年5月）について報告があった。

警察本部

(2) 医療機関に対するサイバーセキュリティ対策の推進

「近年、国内の医療機関のシステムがランサムウェアに感染した結果、電子カルテ等のシステムが利用できなくなり、新規の診療受付や救急患者の受入れを一時停止するなど、国民生活に重大な影響を及ぼす事案が発生している。この種事案は、当県でもいつ発生してもおかしくないことから、医療機関におけるサイバーセキュリティ対策を推進するため、医療関係者に対する研修会を開催したものである。1件目は、放射線技師を対象とした研修会を5月25日にオンラインにより開催し、参加者は約70人であった。講師は、島根県警察サイバー犯罪対策テクニカルアドバイザー及びサイバー犯罪対策課サイバー技術管理官であった。内容は、サイバー攻撃が与える医療体制への影響とセキュリティ対策、事業継続計画の重要性、サイバー犯罪の現状と警察の取組であった。2件目は、医療事務担当者等を対象とした研修会を5月27日島根大学附属病院において、対面とオンラインによるハイブリットで開催し、参加者は約170人であった。講師は、令和3年10

月にランサムウェア被害を受けた医療機関の元病院長で徳島県つるぎ町病院事業管理者須藤泰史氏であった。内容は、ランサムウェア被害発生等の初期対応、医療復旧への経緯、警察等関係機関への通報等の対処要領であった。今後の取組として、ランサムウェア被害による医療危機を想定した机上演習の実施、医師会等と連携した研修会等の開催を行う予定である。」旨の報告があった。

委員 [意見]「県民が医療を受けられなくなるような影響が出ないように、研修等の依頼があれば対応をお願いします。」

委員 [意見]「講師の島根県警察サイバー犯罪対策テクニカルアドバイザーは、部外の方か。」

警察本部 [説明]「警察が委嘱したサイバーに関する知識の豊富なIT企業の方である。」

委員 [意見]「次々と新しいものが出てくるので研修する側も大変だが、様々な視点での研修に対応できるよう引き続きお願いします。」

委員 [意見]「島根でもいつこのような事案が起こるが分からないので、サイバーセキュリティ対策をしっかりと行ってほしい。」

(3) 「松江水郷祭湖上花火大会」における暴力団排除に向けた観覧基本約款の制定

警察本部 「指定暴力団六代目山口組と指定暴力団神戸山口組との対立抗争事件が継続する中、警戒区域と指定されている松江市において、県内最大規模の花火大会『松江水郷祭湖上花火大会』が開催されることに伴い、大会主催者である松江商工会議所に働きかけ、来場者が安全安心に観覧ができるように、観覧基本約款を制定し、暴力団排除活動を推進したものである。開催日は令和5年8月5日と6日の午後8時から午後8時45分までであり、両日約1万発の花火を打ち上げ予定である。有料観覧場所及び席数は、宍道湖東岸に両日延べ数約26,000席である。チケット販売開始日は令和5年6月3日からで、販売方法はインターネット、ローソンチケットによる販売である。約款概要については、チケット販売からの暴力団を排除するため、チケット販売拒否事由に暴力団員等を規定し、暴力団員等がチケットを購入できないように規定した。有料観覧への入場拒否及び有料観覧席からの退場措置規定を設け、暴力団等がチケットを第三者から入手した場合でも有料観覧席からの排除が可能となった。参考事項として、約款のほか、大会当日には、暴力団お断りの立て看板や、会場アナウンスにより、暴力団排除を推進予定である。また、安全安心な大会が実行できるように約款において危険物の持込み禁止など禁止行為

委員	<p>を明示している。」旨の報告があった。</p> <p>〔意見〕「松江で最大の祭りが安全に開催されるよう、警察としてもしっかりと対応していかなければならない中で、このような取決めができたことは良いことである。こうした取組を徐々に広めつつ、暴排意識を高めていってほしい。」</p>
委員	<p>〔意見〕「今回のような有料観覧席の設置は初めての取組なので、対応をよろしく願います。」</p>
委員	<p>〔意見〕「有料席のみならず、広く目配りをしてほしい。無事に終わることを祈っている。」</p>
警察本部	<p>(4) 第49回島根県警察白バイ安全運転競技大会の開催</p> <p>「第49回島根県警察白バイ安全運転競技大会を6月10日松江市の運転免許センターにおいて開催した。出場選手は県警白バイ乗務員20人で競技車両はホンダCB1300Pであった。競技種目は速度感覚競技として、形状の異なる車両5台の走行速度を目測で測定し、その正確性を競う競技の目測測定競技と、白バイのメーターを覆ったまま指定された速度で走行し、その正確性を競う速度感覚走行競技、8の字や狭路での転回、回避制動等のコースを走行し、その正確性やタイムを競うバランス走行操縦競技、Sの字やクランク等の複合的なコースを高速かつ安全に走行し、そのタイムを競う傾斜走行操縦競技を実施した。総合成績は優勝が安来警察署中谷昂巡查部長、第2位は松江警察署別所晃警部補、第3位は交通機動隊の渡野翔輝巡查長であった。種目別優勝者は、速度感覚競技の部は、浜田警察署日室和也巡查部長、バランス走行操縦競技の部は、交通機動隊渡野翔輝巡查長、傾斜走行操縦競技の部は、交通機動隊渡野翔輝巡查長であった。4年ぶりに一般観覧を可能とした結果、一般観客約500人が来場した。会場では、ご長寿安全号による体験型交通安全教室のほか、警察官募集、特殊詐欺被害防止等の広報啓発活動を行った。」旨の報告があった。</p>
委員	<p>〔意見〕「訓練の成果として大会で上位を目指すことで、技量やモチベーションアップにつながる。白バイ隊員のかっこいい姿を見せたり、また、大会の合間に警察官募集の放送をするのは県民へのPRや交通安全にもつながるので、今後も続けてほしい。」</p>
委員	<p>〔意見〕「昨年見学したが、女性白バイ隊員がとてもしなやかに操作しており、女性が活躍できる仕事だと頼もしく感じた。白バイに限らず、術科等も含め、大会のために訓練に励むことで警察官としての能力を高めることにつながっていると実感した。」</p>

委員 [意見]「ニュースで見たが、大会出場までの経過など詳しく放映されていた。今後も訓練に励み、県民の交通安全の意識の高揚に寄与してほしい。また、本大会が警察官募集にも効果が上がることを期待する。」

(5) 災害時等におけるドローン運用体制の整備状況

警察本部 「災害現場等では、入域できない危険な環境も多く、遠隔から操作でき、機動性に優れ、効率的に情報を収集できるドローンは、対処方針の樹立、安全性の検討を行う上で極めて有用である。県警察では、操縦士の育成と恒常的なスキルアップを推進している。民間事業者との協定に基づく運用として、民間事業者7社と協力協定を締結し、災害発生時における捜索等への協力要請及び専門的知見、技術に関する情報交換を行うこととする。今後の方針として、災害時において迅速的確に対応するための機体の整備、操縦士の育成、民間事業者との連携強化を計画的に推進していく。」旨の報告があった。

委員 [意見]「平成30年の江の川の水害では、民間の力を借りてドローンで被害状況等を確認でき非常に有効であった。色々な活用方法があるので、オペレーターの育成や資機材確保に努めてほしい。」

委員 [意見]「災害や人命救助等でよりの確に対応できるということで、今後も期待している。」

委員 [意見]「ドローンの必要性は今後益々高まってくるので、予算を確保し、もっと配備されるようになると良い。」

4 本部長総括

本部長 「医療機関でのサイバーセキュリティ対策について、医療機関については、社会的役割の重要性の割に、その対策が進んでいないのではないかと言われていたが、昨年秋、国内の病院がランサムウェアに感染した結果、システムが完全復旧するまでに2か月以上かかるという甚大な被害を受けた事案もあり、医療機関の問題意識が高まっているところである。この機を逃さず、県の医療政策課や医師会等とも連携しながら対策の推進を図っていきたい。また、白バイ安全運転競技大会については、白バイだけでなく、警察活動のPRの場として有意義である。今回は体験型交通安全教室や警察官の募集活動を併せて行ったが、来年以降も、各種体験教室であるとか様々なことを組み合わせながら、PRの場として効果的に活用していきたい。」旨の発言があった。